

○Lの結婚に対する意識とブライダル衣裳との関連

○ 紀 安子* 福井弥生**

(*、**京都女大

目的：1992年、1993年に報告した結婚に対する意識—（第1報）婚約した未婚女性、結婚3年までの既婚女性、（第2報）サラリーマンの未婚男性、結婚3年までの既婚男性—にひきつづき、本報告では分析対象をオフィス・レディとし、結婚の意識や家庭観とファッション意識の関連を検討することを目的とした。

方法：質問紙配布留置法によって実施。調査時期は1994年10月、調査対象は近畿圏在住の未婚女性、回収率は70%で有効票数は251票（20～25歳未満73.3%、25～30歳未満26.7%）である。調査項目は、個人特性、結婚の意識、ブライダル衣裳のイメージ、スタイル、ファッション意識・態度である。分析は、単純集計、クロス集計、因子分析を行い結婚に対する意識とファッション意識について考察した。ブライダル衣裳のスタイルの資料はブライダル雑誌より、シルエット、スカート、袖、素材、装飾性などを考慮し、予備調査により服種を選出し、写真を個人に提示して調査を行った。

結果：結婚の希望年齢は24～26歳である。現在は結婚したくないと78%が答え現実と希望は矛盾している。学歴は大学・短大卒が80%、職業は保険、銀行、サービス業で、年収は200～300万円未満が50%である。働く目的は、自分の視野を広げ、経済的に自立する。理想の結婚式は、親族や親しい友人だけのアットホームな感じの式である。夫に求めるものは、思いやりで、家族像は、2人で何事も協力すること、結婚後の勤めは家庭に重点を置きながら仕事をつづけるつもりである。挙式の衣裳はデザイン、流行、オーソドックスを選択基準とし、衣裳のイメージは、上品、暖かく、ドレッシーな雰囲気望んでいる。因子分析結果は第1因子に時代的・自己評価、第2因子にデザイン評価の因子が析出された。ファッション雑誌から情報を得て意識は高く、結婚には仕事と家庭の両立が難しい現実の2者択一がある。